

2020年9月6日「追悼式」、「虐殺を考える集い」、逆井橋での追悼



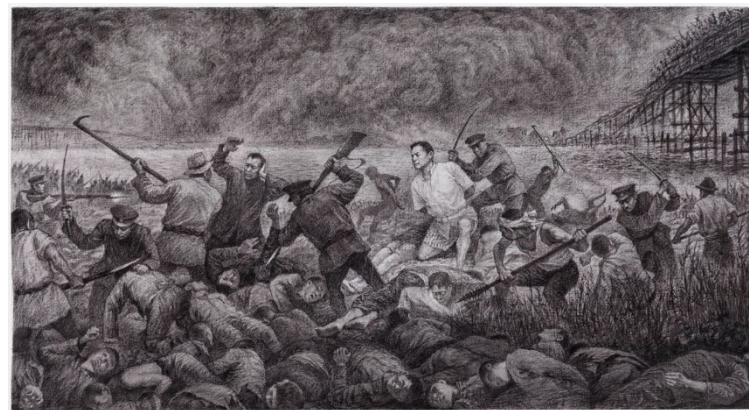
新型コロナウイルス蔓延下の2020年9月6日、江東区東大島文化センター第1研修室で「関東大震災中国人受難者追悼式」と「関東大震災中国人虐殺を考える集い」を開催した（写真上）。

コロナ禍のため、会場の収容人員は普段の半分の40人ということで、20名以上の方の参加希望を断る。

中国人受難者追悼式場には南京芸術学院教授 張玉彪先生による《東瀛大屠殺—華人惨遭屠戮》（「関東大震災中国人虐殺之図」【油絵・2020年】）（写真下）のレプリカが掲げられ、木間氏が刻んだ「一九二三年 東瀛惨案 王希天烈士と旅日華工遭惨殺之図」（版画）のレプリカも会場を見守る。

正面の「悼」碑を囲む受難者名を刻んだ名票に、今年は「悼 不明」の名票を受難者の一群として加える。また、今春亡くなられた今井清一さんを追悼し仁木ふみ子さんを偲ぶべく、お二人の遺影とともに『史料集 関東大震災下の中国人虐殺事件』、今井さんの最後の著作となった『関東大震災と中国人虐殺事件』を壇上に供えた。

田中宏共同代表の挨拶で開式。張先生が描いた絵画の説明や、温州華蓋山でもまさに今追悼会を開いている（写真中）ことが紹介され、携帯電話で音声がか場に流れた。続いて中国人受難者と今井さん



仁木さんへの思いを込めて黙祷。中国のご遺族から寄せられた3通のメッセージは朱弘さんが代読。来賓・議員の挨拶では、福島みずほ議員と初鹿明博議員のメッセージを紹介し、地元江東区の中村まさ子区議会議員が挨拶された。なお、コロナ禍で集会出席を控えている中国大使館からは例年通り供花が寄せられた。参加者一同で献花した後14時過ぎに閉式。

長い休憩時間のあと、同所で、「中国人虐殺を考える集い」。

冒頭発言は共同代表の林伯耀さん。ご自身のお父さんの体験、大島町事件の背景などを語った。また、関東大震災の虐殺のさなかに夫・陳善慶を救った「ネエサン」を紹介。彼女の国際主義に応えたい、その名前を取り戻したい、探し出すために力を貸してほしいと訴えた。

木野村氏の問題提起は、「自警団・在郷軍人会の背後にある総力戦体制作り、その一貫としての内務省・警察と軍による民衆動員体制の歴史」をみることの重要性が訴えられた。

集い終了後は場所を代えて逆井橋たもとで王希天さん追悼。張先生の絵に描かれる王希天と受難者に



向かって黙禱。その後、中川川面に田偉さんによる「九一八」（我的家在東北松花江上・我が家は東北松花江のほとり）の歌声が流れた。

前日の9月5日、荒川河川敷の「関東大震災97周年 韓国・朝鮮人犠牲者追悼式」には、中国人受難者遺族联合会（準）は、今回「コロナ渦」で参加できなかったが、書面で挨拶を送った。